

事業完了届

(あて先)

平成30年 4月 6日

京都市ごみ減量推進会議 会長 高月 紘 様
(申請者)

団体の所在地	〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町
団体の名称	一般社団法人日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会
代表者 役職・氏名	京都工芸繊維大学名誉教授・木村照夫 印

活動が完了しましたので、京都市ごみ減量推進会議 市民等からの提案によるごみ減量モデル事業
実施要綱 第13条の規定により、関係書類を添えて提出します。

助成対象となる 事業の種類	☒ (1) 先進的モデル事業助成ー①家庭ごみ減量モデル ☐ (1) 先進的モデル事業助成ー②地域活動モデル ☐ (2) 地域活動助成	
事業名	廃棄学校制服の有効活用による衣類ごみ減量化	
事業完了年月日	平成30年3月31日	*平成30年3月31日(実施最終期日)以前の日付になります。
助成金交付予定金額(円)	574,836円	*交付決定通知書の金額
助成対象となる額 (円)	574,836円	*第9号様式の 「助成対象となる額(収支差額)」
提出書類	① 事業完了届(第7号様式)【この様式】 ② 事業報告書(第8号様式) ③ 事業収支決算書(第9号様式) ④ 領収書等, 支出のわかる証ひょう類の原本 ⑤ 事業の成果物(パンフレットや取組時の写真)等 ※データでも可 ⑥ その他, 会長が必要と認める書類	

京都市ごみ減量推進会議
市民等からの提案によるごみ減量モデル事業
事業報告書

採択年度	平成 29 年度
団体の名称	一般社団法人日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会
助成対象となる事業の種類	☒ (1) 先進的モデル事業助成ー①家庭ごみ減量モデル ☐ (1) 先進的モデル事業助成ー②地域活動モデル ☐ (2) 地域活動助成
事業名	廃棄学校制服の有効活用による衣類ごみ減量化

廃棄学校制服の有効活用による衣類ごみ減量化

一般社団法人日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会

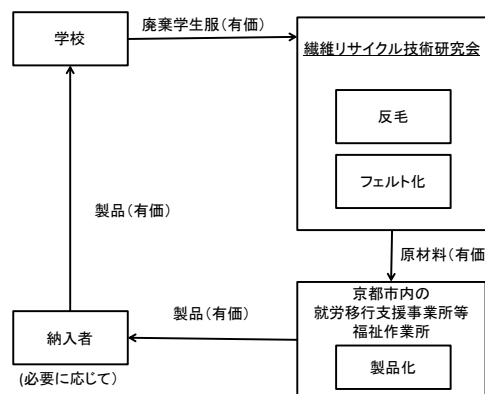
平成29年度 助成金額574,836円 主な実施場所 京都市内全域

事業目的・概要

お下がりにもならない、廃棄予定の**学校制服を有効活用**（アップサイクル）することにより、**衣類ごみの減量化**を目指す。今回、京都市立御池中学校の協力を得て、廃棄学校制服を回収し、中学生等の意見を聞きながら御池中学校で使用する付加価値のある製品等にアップサイクルする、いわゆる**地産地消型モデル(仕組み)**を試行し最適化を図る。試行結果をまとめて制服採用の京都市立中学校に啓蒙活動を行い、最終的には**全国に水平展開**できるような**事業モデル(京都モデル)**を確立する。

取組内容

- 京都市立京都御池中学校でリユースされず廃棄される予定の**学生服を回収**。
- 繊維リサイクル技術研究会で反毛綿と不織布を**委託加工**。
- 御池中学の生徒、先生を対象にワークショップを開催し、加工品の**最終製品を複数決定**。（一つは毎年入学生が必要とする**防災頭巾**とし、家庭でも使用可能な愛着のある**防災頭巾**の設計）
- 「3.」で決まった最終製品に相応しい福祉作業所を選定し**製品化**。
- 福祉作業所から本申請研究会が製品を購入し、一部は御池中学に寄贈し（地産地消）、一部は京都市の中学校（制服採用の72校）、高等学校に配布して本提案システムの**検証と啓発活動**を行う。



成果

●学生服の回収

御池中学、PTAの協力によりお下がりにならなかった男女ブレザー17着、スラックス48着、女子スカート6着を回収することができた。

●生徒たちとの討議により最終製品の決定

御池中学7年生全6クラスの家庭科の授業をスタッフが分担して受け持ち、繊維リサイクルを中心とする環境問題につ



いて講義するとともに各授業の最後に生徒たちと制服から何を作れば良いかを議論し、最終的に一番人気のあった筆箱をつくることに決定した。生徒たちが廃棄繊維製品の実態について知る、良い機会となった。

●回収制服の反毛

回収した制服を反毛工場で解繊したが解繊状態が悪いと次の不織布工程で問題が生じることが明らかとなった。また、白糸が混在すると機械に絡みついた糸が、次の製品に混入することがあり、不織布作業を受けて頂けない場合があることが判明した。したがって制服から裏生地等に使われている白生地の除去が必要であることがわかった。

●反毛化制服からの不織布(フェルト)の製作

反毛化が適正に行われていれば不織布の製造は容易であり、最終製品に応じた目付の不織布が得られるが、不織布強度を確保するにはバージン綿を50%程度混合することが望ましいことが明らかになった。

●フェルトを用いた筆箱と防災頭巾の製作

筆箱と防災頭巾は福祉作業所の協力を得て製作した。福祉作業所では様々な小物の製作経験があり、バラエティーに富んだ製品を得ることができることが明らかになった。ここで、筆箱の価値を向上させるために京都女子大学の学生さんのデザイン協力を得て織りネームを制作した。

●制服採用学校への本システムの提案/啓発活動

御池中学7年生全員に筆箱を提供し、今回の製作物に対する感想をアンケート調査した。また、京都市で制服を採用している73の中学校、10の高等学校に本事業のコンセプトを示したちらしと筆箱を配布し、制服リサイクルに対する啓発活動を行う準備体制を整えた。さらに御池中学玄関に成果物をパネルとともに展示した。



【団体名】 一般社団法人 日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会

【代表者】 京都工芸繊維大学・名誉教授 【主な活動地域】 京都市

【ウェブサイト】 <http://tmsj.or.jp/labo/recycle/recycle-index.html>

【設立の目的】

循環型社会形成推進基本法が2000年5月に成立し、廃棄物の減量化とリサイクルの一層の推進が要請されてきた。繊維関連の業界ならびに一般家庭においても大量の繊維系廃棄物が発生しており廃棄物の減量化と有効な処理方法の確立が急務となり、産・官・学の緊密な交流のもとに環境・リサイクル問題に取り組む必要が生じた。そこで、繊維および繊維機械に携わる種々の分野の技術者、研究者が一同に集い、環境に優しい繊維産業の構築の一環として繊維系廃棄物の有効利用について議論する場として2001年に本研究会を設立することにした。

【主な活動内容】

- 情報交換会（2018年3月現在、128回開催）
- 海外リサイクル実態調査旅行（中国、ベトナム）
- 国内外で国際シンポジウム開催（過去7回開催）
- 学会誌において種々の調査結果発表
- 繊維リサイクル関連冊子の発行
- テーマ毎の種ワーキンググループ活動

事業収支決算書

団体の名称	
事業名	

○収支決算

	No.	費目	内容(品名等)	単価(円)	税込 税抜	消費税(円) ※単価が税 抜の場合の み記載	数量	単位	小計	領収書等 資料番号 (算用数字で記 入)
支 出	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	7									
	8									
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
	16									
	17									
	18									
	19									
	20									
収 入										
※本助成金以外 の収入										
支出合計額(A)										
収入合計額(B)										
助成対象となる額(A-B)										
※助成上限額(50万円まで、または100万円まで)を超えない額としてください。 ※助成上限額を超える場合は、収入に自己資金等を記入し、助成上限額を超えないよう調整してください。										

■人件費及び業務委託費の上限確認欄（それぞれの費目の金額欄に、計上した各費目の合計を記入してください。）

費目		金額	助成対象なる額に 対する比率
業務委託費	計上した業務委託費の合計		<50%以下でなければなりません。
人件費	(計上した常勤スタッフ等と非常勤・アルバイト等の合計) ※先進的モデル事業のみ		<40%以下でなければなりません。
人件費と業務委託費の合計			<50%以下でなければなりません。

※収入欄には本助成金による助成収入は計上しないでください。
※Excelファイルも準備していますので、ご利用ください。
※この様式はA 4版2枚までに収めてください。

こちらは資料の参考として、エクセルデータをご利用ください。